

御側小將となり、寛政元年新知百五十石を受け、次いで表小將に轉じ、十一年五十石を増し、次第に昇進して大組頭に至り、文政七年歿した。

カウサカバシ 上坂橋 金澤橋梁記に、『上坂橋横山山城門前』とある。藩政の時横山氏の邸前なる江山の橋で、上坂氏邸地の前にあるから名づけたものである。

カウサカヘイベエ 上坂平兵衛 初め越前浪人で村田兩左衛門というたが、享保中加賀藩に來仕し、氏を上坂と改め、俸百石を受け、後人持組に班し、三千石(内五百石與力知)を受けた。平兵衛は前田宗辰の生母淨珠院の兄であつたのである。

カウジャマ 柑子山 鹿島郡南三郷に屬する部落。

カウダ 河田 コウダ 能美郡德橋郷に屬する部落。

カウチ 河内 コウチ 能美郡白峰の内なる赤岩・市瀬・三谷の總稱。

カウチ 河内 コウチ 鳳至郡西脇の内の小字。

カウチシヨウ 河内庄 古くから石川郡及び能美郡に跨つてゐた。貞和三年七月廿五日の祇陀寺文書に、『奉寄進加賀國河内莊廣瀬村内瀬切野田島等事云々。』とあつて、加賀國河内莊地頭藤原重宗の名を著してある。こゝに廣瀬村とあるのは、後世能美郡の山上郷である。又應永廿五年十二月六日の祇陀寺文書には河内庄榎森野とあつて、その榎森も能美郡榎海郷である。しかし應永廿六年六月十一日富樫介滿春署名のものには、河内庄祇陀寺とあつて、祇陀寺の所在は石川郡吉野であ

カウ

る。

カウチシヨウ 河内庄 藩政時代では石川郡の鶴來・石切小原・口直海・中直海・久保・吹上・板尾・金間・下折・内尾・福岡・江津・吉岡・奥池・白山・中島・八幡・三宮・吉野・佐良・瀬波・市原・木滑・木滑新・中宮(以上加賀藩領)の外、能美郡尾添・荒谷、及び牛首・風嵐・島・深瀬・下田原・鶴ヶ谷・釜谷・五味島・女原・二口・瀬戸・新保・須納谷・丸山・小原・杖(以上幕府領)の四十三ヶ村を含んで居た。

カウチダニ 河内谷 コウチダニ 能美郡風嵐の部落から東南、牛首川右岸の溪谷。

カウチモク 鹿内木工 太田長知の家臣。慶長七年五月大聖寺城に居た長知の誅に服した後吉田茂右衛門と共に嬰城の體勢を採つたが、前田利長の手書を得るに及んで、初めてそれを明け渡した。末孫不詳。

カウチヤマオトマサ 河内山之昌 通稱右平次・七左衛門・半左衛門・久太夫。養父七左衛門番昌の遺知三百五十石を襲ぎ、安永二年大小將に班し、次第に昇進して定番頭に至り、天明六年百石を加へ、文政六年五月廿一日隠居して久殘と號した。

カウチヤマタカマサ 河内山孝昌 通稱右平次・半左衛門。與力として百五十石を受け、元禄・享保に互つて三十年江戸に在り、後金澤御廣式御用達となり、享保六年組外に班し、十二年百石を加へ、明和六年二月晦日八十二歳を以て歿した。

カウチヤマタカマサ 河内山番昌 通稱七左衛門。初め番番となり、延享四年新知百五十石を受け、表小將となり、寛延元年御使番より漸く昇進し、御持簡頭に至り、明和六年

養父半左衛門孝昌の遺知二百五十石を襲ぎ、百石を加へ、その先知は除かれた。歿年不詳。

カウチヤマハンザエモン 河内山半左衛門 初め前田右近秀繼に仕へ、祿二百石を受け、足輕二十人を預けられ、佐々成政と俱利伽羅に於いて取合の際に首級を獲た。次いで秀繼の子又次郎利秀に従ひ、關東の役に八王子に於いて首級を得、後朝鮮役の頃利家に仕へて二百石を受け、利長に附隸し、寛永四年歿した。

カウチヤマササネ 河内山昌實 前田創業記の著者。加藤翁徐行子と號する。通稱與五右衛門。長連頼に仕へ百石を受け、尙連の時足輕頭を勤め、貞享四年歿した。

カウヅキカズマ 上月數馬 父次右衛門は福島正則に仕へて浪人となつたもの。數馬寛永元年前田利常の子小將として召出され、三百石を領し、御馬廻に轉じ、正保四年歿した。子孫相繼ぐ。

カウノトウベエ 河野藤兵衛 長連龍の臣。父は土佐。天正十八年武州八王子の役に従ひ、斬敵一級。慶長五年八月三日又前田利長の大型寺城攻撃に従ひ、連龍の兵と共に籠丸に進み、血戦して城隍の下に死んだ。年廿八。

カウノヒゼン 河野肥前 羽咋郡堀松庄の領主で、天正五年五月七尾の將豊田正等と共に上杉氏の將長澤筑前を穴水城に攻め、又七月十八日長連龍に従うて、松波丹波等と兵三百を以て乙ヶ崎に至り、上杉氏の援將平子備中の上陸を待つて之を破つた。次いで九月十日七尾落城の後松波常陸長親等と共に珠洲郡松波城を守り、長澤等に攻められて茲に戦死した。肥前の子土佐も柳瀬の役に戦死した

が、後裔世々長氏に仕へて宗支二家に分かれてゐた。

カウノミチズミ 河野通住 通稱四郎右衛門、初め數馬。その母は清泰院夫人の乳人であつたが、落飾の後永順と號した。是を以て通住寛永十年清泰院に召出されて三百石を受け、二十年前田光高から綱紀に附屬せしめられ、延寶五年祿百石を加へ、貞享元年歿した。

カウノミチタダ 河野通尹 大聖寺の藩士。通稱八十郎・新丞・四郎兵衛・三左衛門。初諱通智。字は弘父。號は環翠軒。父は通英。正保三年八月生まれ、廿二歳久世大和守廣之に仕へて經を講じたが、延寶四年六月來つて大聖寺藩に仕へ、父の後を受けて三百石を受けた。正徳四年七月六十九歳で歿。通尹詩文を能くし、傍ら天文・候氣の術に通じた。

カウノミチナリ 河野通成 通稱忠太郎・四郎右衛門。凡青と號した。文化九年通成齡十二で父多宮通之の後を承け、十二年その祿四百石を襲ぎ、大小將に班し、文政十年明倫堂讀師に任じ、尋いで世子抱守・世子附大小將横目・物頭並・先弓頭兼異風裁許・齊泰夫人住居附用人・歩頭を経て、嘉永二年御小將頭に任じ、六年辭職、安政四年致仕剃髮して湛齋と號し、萬延元年六月晦六十歳を以て歿。

カウノミチヒデ 河野通英 大聖寺の藩士。幼名は自然、通稱を喜平次、號を春祭・志替子または晚翠軒というた。慶長十七年十月廿六日長州萩に生まれ、寛永三年初めて京師に上り、竹田定宣法印の門に入つて醫を學ぶこと三年、その間に傍ら儒書を習つた。既にして八年十一月江戸に至り、剃髮して益庵といひ、次いで春祭と稱し、十年九月太田備中守資宗